

AA

日本ニューズレター No.102

171-0014東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

AA日本 30周年 福岡

記念集会開催のお知らせ 2005年9月2、3、4日

AA日本10周年の感想を「7956」(BOX-916及び日本ニューズレターの前身)からひろってみました。

「何はともあれ、ついに10周年の開幕となる。タンスの奥深くにしまい込んであった着慣れぬスーツなどを身につけ、我ながら『馬子にも衣装...ヨ!』とばかり悦に入りつつ、会場に向かう。会場となった千代田公会堂の、靖国通りに面した入口には、『AA日本十周年』の華々しい看板が我々を迎えている。AAという文字が、東京のド真ん中で、これほど晴れがましく、これほど堂々と、公衆の面前に掲げられたのは、恐らく初めてなのではないだろうか。何とはなしに気恥ずかしい。

会場は人、ヒト、ひと、でごったがえしていた。いつもはジャンパー姿のお兄さん達が、三つ揃いなどでめかしこんでいると、やはりいい男に見えてくる。良くなっている女性メンバーは、ただそこに立っているだけでAAのプログラムの回復の見本になるとだれかが言っていたが、まさにその言葉通り。AAにいる女性はAAのプログラムと共に表情の輝きを増し、会うたびに美しくイキイキとなってきた『ひきつける魅力』に基づいた宣伝効果をもたらしている。

自らをアルコールクと名乗るイイ男やイイおんなたちが、こんなにたくさん日本中から集まっている。回復が信じられるとはこういうことのような気がする。言葉や説得力や理論がどうであれ、その人から、ただよってくる何か、多分その何かがこのプログラムにひきつけるメッセ-ジとなって次の人に、そして専門家に届けられているのだと思う。その何かとは、過去の生きざまがどうであれ、今現在の生き方から匂い出てくるものじゃないだろうか。たくさんの人たちと言葉を交わした。ひとりひとり違っていた。」 Y

以来20年の時が経とうとしています。15周年、20周年、関東甲信越地域で開催された25周年と続き、いよいよAAが日本で始まってから30年の記念集会を2005年9月2、3、4日に九州、福岡の国際会議場で開催することが決まりました。実行委員会も本格的な活動を始めようとしているようです。福岡の街に、国際会議場にAAの文字が清々しく掲げられる日まで、それぞれが出来る方法でこの集会を盛り上げて行こうではありませんか!

アルコール依存症(アルコールリズム)が回復できることを証明できるのはアルコールクだけです。そして、社会的な

信頼と信用がAAという共同体に寄せられることが、今なお苦しんでいる人たちへAAの愛の手が差し伸べられる大きな助けになることは言うまでもないことでしょう。

日本中のAAメンバーが集まれば、いえ、世界中から集まってくるはず!きっと大きな力が生まれ、ひきつける魅力がいかに発揮されることでしょう。今日一日の生き方を続けることで明日の希望が、そして2年後の希望を分かち合えるのだと思います。2005年の秋、福岡の街で会いましょう!一緒に中州の屋台でトンコツラーメンを食べましょう!AAのプログラムと出合った時からもってきた、たくさんの贈り物をお返しするために、そしてその喜びを分かち合うために記念集会へ向けて歩き始めましょう!



『第4回AA日本サービスフォーラム』を終えて

さわやかな秋晴れの中で10/3~5日、第4回目になる全国サービスフォーラムが福岡で開催されました。初の試みとなる2泊3日の長丁場にもかかわらず北は北海道、南は沖縄まで、129名の全国の仲間が参加し盛大に行われました。1日目のオープニングセレモニーの後は、AA流の“まずは聞く事から”で始まり、日頃聞く事の出来ない常任理事、WSM、JSO職員の方々の話しに質疑応答。2日目には本格的なディスカッションに入り、5分科会に全国代議員フォーラム、3日目はさよならミーティングなど、中身の濃い3日間でした。

地区委員の任期が終わりに近づいた去年の9月、突然サービスフォーラムの実行委員長に選出され、大変な役割を引き受けてしまったなあと戸惑いながらも、当時はただ自分なりにやれる事をやるしかないんだと、言い聞かせていたのを覚えています。途中転職で土日が休めなくなり、実行委員会には1度しか参加できないという状況ながらも多くの仲間の協力に支えられ、最後までこのイベントに関わって、他の実行委員の方や地元福岡の仲間には本当に感謝の気持ちで一杯です。フォーラム前は脇役に徹し、始まってからも会場設営等の舞台裏に終始し、結局3日間で半分程度しか会場内に

は入れず、おまけに初めての参加となるこのフォーラム・・・“これで実行委員長と言えるのか？ いいフォーラムだったのか？”というのが終わってからの率直な感想でした。しかしながら多くの仲間に“いいフォーラムだったね”と声をかけられ、逆にホッと胸をなでおろした次第です。企画当初から今回のイベントのメインと考えていた分科会では“広報”に参加しましたが、サービスに対する仲間達の強い関心の前には4時間という時間はあっという間でした。フォーラム自体にはあまり参加出来なかった分、プログラムの合間や夜のフェローシップでは思う存分仲間との分ち合いが出来ました。一番印象に残ったのは第1回の愛知でのサービスフォーラムの実行委員の方々と、第1回の時の苦労話や今回の裏話し等出来た事で、まるで昔の友人に何年か振りに出会ったような気分でした。3日間を通して感じた全国の仲間のサービスに対する熱い思いにはただ驚くばかりでしたし、最終日の“1分間スピーチ”では北海道から沖縄まで地域を越えたAAの一体性を強く感じました。最後のhand in handではこのフォーラムまでのもどかしさや苦労が一瞬にして消え失せ、この喜びと感動を次の新しい仲間に伝えていくことが、僕等先行く仲間の責任だと痛感しました。アクションから見える福岡空港の飛行機を見ながら感じた思い、“次は30周年、また福岡で会いましょう”・・・多くの仲間のご協力、ご参加有難うございました。

実行委員長 仁田原



『サービスフォーラムに参加して』

九州に決定の一報が届いた。ありがとうの一言。評議員よ頑張ったな！感謝のなかで実行委員が立ち上がり、いろいろな話し合いが持たれた。

話し合いの中で何回も同じ事の繰り返し、しまいには、自分の中でフォーラムって何なの、自問自答することも何度かあった。ただ仲間の話を聞くことに専念し続けた。実行委員会のたびに鹿児島のはてから片道4、5時間かけての委員会参加、行く時は良いのだが、帰り道は何とも長かった。やっとの思いで開催当日を迎えることができた。あまりまとまりがなかったような実行委員会（私だけかも？）が当日のまとまりかたは実にすばらしい光景だった。長い間、感じたことのなかった一体性をこの会場の中に見た思いがする。こみ上げる感動、身体の何というか皮膚、それとも背中、いや違う、もう体がジンジンしていた。長年追い求めていた、正三角形の存在が感じられた。これぞサービスの喜びであろう。メンバー一人一人の目の配り、体の動き、一人一人が自分のすべき事をこなしている姿、初めてなのに、普段と変わらな

いように一つ一つこなしていく。実にすばらしい、感動した。開催に感謝！

プログラムは淡々と進んでいったが、いつも口を開かないと気がすまない自分が、仲間（理事）の話を聞いている。まるで吸い込まれていくように、何がそうさせているのか自分自身でも分らない。「おまえの頭はだいじょうぶか？」反発することでしか表現の仕方を知らなかったかつての自分の姿だが、まさにこの時この瞬間だけは同じ空気を吸い込んでいた。

二日目分科会の中で、財務の担当司会をさせていただいた。おかげさまでたくさんの仲間と分かち合いが持てたと思う。献金に対しての熱い思いを全員が話し、まさしく一体性の中で本当にメンバー一人一人献金と言うサービスを感じ取ることが出来たと感じている。ある仲間がボツリ「お札を今日だけは入れたくなったよ」。

いよいよフォーラムも終盤に近づいて、代議員フォーラムについて一言。代議員が話しやすくなるような雰囲気をつくること、それも分かち合いだろう。フォーラムは教える所でも、自己アピールする所でもない、あくまでも経験を分かち合う所である。まずは代議員が何を考え、何に対して迷っているか話しを良く聞いたうえで経験を話してほしいものだと感じた。最後に私のひとり言を付け加えると、サービスに一番先に必要なものはお金である。各地区、各地域、各メンバー皆が一番先にするサービスは献金をすること、私達メンバーはAAに巡り合ったその瞬間から責任が生じるのだと思う。その責任それが献金ではないだろうか？自分がもらった大きな贈り物をお返ししてゆくために必要なものの一つだろう。グループ、地区、地域、全体、全てが一つになって始めてAAなんだという気分になったフォーラムであったと同時に、メンバー一人一人が今回のフォーラムで権利と責任の一致を感じた3日間でもあったように思う。感謝”

実行委員 H

『素晴らしい感動をありがとうございました！』

期待と不安の入り混じった心境で、初めて参加させて頂きました。会場の『アクション福岡』は、スポーツ施設が集中する美しい「博多の森」の小高い丘に雄大に聳えていました。福岡空港の直ぐ側でした。私は、「北海道から沖縄まで全国の多くの仲間と会える！」と、足を速めました。昨年5月に退院し、6月に再就職、7月に天草のラウンドアップに妻と参加、8月にグループのオープン、9月グループ、代議員登録、10月以降は福岡地区、九州・沖縄地域の集会にスポンサーの導きで、わけも分らず参加し続けて来ました。「仲間に会いたい！」ただそれだけで参加しました。「対馬」-ご存知ですか？「韓国」まで50km、「福岡」まで150km、玄海灘に浮かぶ「長崎県」の島、人口四万二千人、六つの町から構成される島、来年3月1日に「対馬市」になります。「若者が流出し高齢化が進行する第一産業中心の孤独な島です！」私は、国境に近い最北端の町に両親、妻、19歳の息子と暮らしています。Mtに通いながら、AAの三つのレガシー「回復、一体性、サービス」って何だろう？困難な出来事に遭遇する度に、スポンサーに「SOS」の救助信号を発信しながら、今日まで歩いてきました。「フォーラムでの感動」その一つは、仲間が黙々テキパキと自分の役割と責任を果たしていた姿です。「しもべ」は、謙遜謙虚の心構え無くして出来無い事でしょう。先行く仲間が当然のように

自然に振舞う姿を見た時、「サービス」を深く心に刻み込むことが出来ました。本当に感謝します！ 次の感動は、全国の仲間と堅く手を繋ぎ「小さな祈り」を大きな声で唱和した時です。「一体性」 この感動や生きる喜びを、今苦しんでいるアルコールに伝えたいと感じました。対馬に帰り着いた今は、心地よい疲れと仲間とのフェローシップの思い出に浸っています。「きっと、何処かでまた会いましょう！」

対馬 G 志朗

SERVICE

『広報・病院・施設フォーラム(栃木県宇都宮市)の開催について』

今年の初め、このフォーラムに関東甲信越地域で立候補しようという話が出たときに、ぼくは反対し、立候補するにしてもせめて来年の実施にしよう仲間を説得しました。たった半年の準備期間では周知徹底は不可能だし、関係者はともかく、地域の仲間の同意を取り付けるのは無理だと感じたからです。コミュニケーションが十分でない状態でイベントをやっても逆効果だとも思いました。

しかし地域委員会で仲間がこのフォーラムの立候補意思を示したところ、満場一致で可決。そして二週間後には全国評議会で立候補。翌週の地域集会で報告の後、四月の常任理事会で了承となりました。そして五月の関東甲信越ラウンドアップの会場で準備会が発足、第一回の実行委員会が六月一日に開かれました。開催まで三ヵ月半。当初の心配はよそに、地域は全面的にバックアップしてくれています。実行委員の人数はそれほど多くはありませんでしたが、JSOや地元栃木のグループ・関係者の協力が心強く、無事に当日を迎えることができました。

結果的には関係者50名弱、メンバー約70名の参加を達成できました。フォーラムの広報予算をややオーバーしてしまったことが心苦しかったのですが、それもやむを得なかったと思います。

「本来評議員は常任理事会の活動をチェックする側の立場」という声も聞こえました。しかしながら、ゼネラルサービス機構の現実では地域評議員とその経験者が動かなければ立ち行かないことも事実だと思います。ぼく自身も含め、現在関東甲信越地域でサービス活動をしている中心メンバーはAA日本25周年記念集会の実行委員経験者です。サービスがソプラエティーを支え、そしてそのメンバーがさらなるサービス活動を広げているのを肌で感じます。今回のフォーラムでまた大きな力をいただき、また仲間とともに活動できることを感謝します。

実行委員長 森田 Y.

今回のフォーラムの成果がすぐ表われると思いませんが、将来、必ず栃木のアルコールの手助けを出来るようになって信じています。

実行委員 太田

『目に見えない仲間の力』

去る9月20日土曜日に栃木県宇都宮市で、常任理事会主催「第二回AA日本 広報&病院施設フォーラムin 栃木」が

開催され、約50名の各界の関係者の参加という結果を残すことになりました。これは、そこには「目に見えない仲間の力」、表面化されない沢山の仲間の力の結集の成果なのだと思います。

その一つに、主催の常任理事会からの予算というのは、一人一人のAAメンバーの献金です。この献金が無ければ、開催したくてもすることは出来ません。当たり前ようですが献金があつてこそ！と痛感しました。献金を有効に活用させていただけたと思います。全国のAAメンバーのみならず難うございます。

そして、各界関係者の方々の参加があり、その関係者へ案内文書を直接メッセージ等で「手渡し」してくれた栃木県の近隣のメンバーの力、特に埼玉地区のメンバーの行動力は確実に関係者へ伝わり、フォーラムに参加していただける結果となり大きな恵みになったと思います。

また、パネリストとしてA・B類常任理事、宇都宮市の地元の関係者の友人としての協力や家族の方の勇気があり、今回のテーマの実現が出来たと思います。最後に、わずか3ヶ月の短期間という余裕のない中で、時間と動力を提供された関東甲信越地域委員会の各委員会メンバーの協力と、実行委員会メンバーの大きな努力があったのだと思います。私は、実行委員の役割をすることで、この「目に見えない仲間の力」の偉大さを、より身近に感じる事ができ、また、この「力」は関係者を通じて、まだ苦しんでいるアルコールに伝わるのだ！と信じられます。感謝というよりは、「感動」で熱い気持ちにさせていただきました。みなさま、本当に有難うございました。

実行委員 荒井 M.

『ありがとう！仲間たち』

評議員さんから栃木でAA日本広報・病院施設フォーラムをやってみないかという話があった時、AA後進県？としては願ってもない機会と喜んで希望した。

さて、何が出来るのか？実行委員会のメンバーの熱意に支えられながら、地元のメンバーの意識を啓発し、一緒にやっていきたいと願った。横断幕も立派なものを作るメンバーもいたが、とにかく仲間と一緒に手作りでやろうと決めた。苦勞したが何とか...出来上がった。新しい仲間と一緒に、時には大笑いしながらの製作過程はかけがえのないものになることと思う。

関係者への広報活動も足で歩いてと思ったが与えられた機会だけで終わってしまい、大いに反省している。少しでも地元の関係者が参加してくだされば、そして一人でも多くの新しいメンバーにつながればと願ってやっただけだよ！仲間の言葉になぐさめられて.....。当日予想に反して地元の仲間が来てくれた、嬉しかった。終了後一緒にコーヒータイムを分かち合って別れた。よく日のミーティング場で驚かされた、参加した新しい仲間の表情が明るく生き生きしている。その後の歩き出した行動の変化、不思議な力...ってやっぱりあるんだなあ！田辺先生の話は「そうそう、その通り！」と私の中では共感しきり。仲間の話と一緒にやっているからこそ感じる意識の変化、AAのプログラムはやはり信じられると思った。この企画に関わって、やれたこと、やれなかったことを含めたくさんの力をいただいた。すぐに結果は出ないかも知れないが、何かが変わってゆく、そんな気がする。実行委員会、そして一緒に関わってきたすべての仲間がこの機会を与えてくださったこと心から感謝しています。ありがとうございました。

実行委員 宇都宮 G うらん

『第5回AOSM(アジア・オセアニア・サービスミーティング)に参加して』

7月6日から8日まで、香港のシティ・ガーデン・ホテルで、第5回アジア・オセアニア・サービスミーティング(以下AOSMと省略します)が開催されました。今井評議員と共にこの会議に参加してきましたので、その概略を報告します。

今回のテーマは、「3つのレガシー 回復・一体性・サービス」でした。そして私が今回の基調スピーカーとしてこのテーマに沿って話すように求められましたので自分の過去を振り返りながら、自分自身の回復の中でも、また日本のAAの成長の過程でも、このレガシーがいかに密接に結びついていたかについて話しました。

この会議には10カ国、18名の評議員が集まりました。その中でも、中国とモンゴル共和国からそれぞれ2名の評議員が初めて参加し、全員から温かい拍手で迎えられました。このモンゴルからの参加については、事前にAOSM事務局から旅費等の援助について日本に打診があり、常任理事会の承認を得て、1000ドル(US\$)拠出しました。モンゴル評議員から特に日本の皆さまによるしくという感謝の言葉がありました。

これらの評議員のほかに、ニューヨークGSOから所長と国際担当のスタッフが参加してくれました。また日本の通訳をお願いしているダグ・Gさんも参加されました。

このAOSMでは、ワールドサービスミーティング(以下WSMと省略します)と違って傍聴が許されます。また、会議のある部分では、傍聴者(オブザーバー)の発言も認められます。そのため、常時数名の傍聴者(オブザーバー)が熱心に評議員の発言に耳を傾けていました。もし将来日本でもAOSMが開催されたら、ずいぶん日本のAAにとっても刺激になるのではないかと感じました。

各国のカントリーレポートはどれも興味深いものでしたが、やはり初参加の中国とモンゴルの報告が注目を集めました。中国はAAが始まって3年になるとのことですが、現在北京では週5回、天津では4回のミーティングが行われ、北京には16名、天津に14名のメンバーがいるということです。またモンゴルでは、5年前にAAが始まり、一昨年GSOも設立したとのこと。現在登録されているグループ数は28、1600名のメンバーがいるとのこと。しかしまだ十分「伝統」が理解されていないこともあって、政府からの援助を受けたこともあったそうです。このような問題についても今後国際間のスポンサーシップが必要であることを痛感しました。

この国際間のスポンサーシップについては、ニューヨークGSOの国際担当からも詳しいプレゼンテーションがあり、またワークショップの中でも取り上げられました。日本は近く30周年を迎える、いわばアジアでの先行く仲間として、

近隣の韓国、中国、モンゴルなどのAAの発展に対して、大きな責任があると感じました。

このほかインドネシアでは12年前に最初のミーティングが作られましたが、あまりメンバーは増えませんでした。しかし今ではインドネシア人のメンバーが30から40名ぐらいで、その外にインドネシアに住んでいる外国人のメンバーが約50名いるとのことでした。

この会議の出席者を見ても、カンボジアでAAを立ち上げるため苦心している評議員からカンボジア語のビッグブックの翻訳を進めてきた報告がありました。ようやくその努力が実って、近いうちに発行されるとのことです。その原稿も見せてもらいましたが大変な努力だと思います。日本もそうでしたが、AAがその国に根付くためにはその国の言葉による書物やパンフレットが不可欠です。またこの翻訳の問題に関して、ニューヨークGSOの所長から、AA文書の著作権の問題について説明がありました。最近ある国では、GSOの承認を得ないでAAの文書を出版したため、その書物をめぐって、訴訟が行われたということも報告されました。

昨年スペインのオビエドで行われたWSMについても報告がありました。AOSMに参加している国でも、全ての国がWSMに参加できるわけではないので必要なことなのです。今回はオーストラリアの評議員が報告をいたしました。またこのAOSMのことを次のWSMで報告するのは日本の今井評議員の役目になりました。

前回のソウルでのAOSM以来2年間、事務局として諸国間の連絡と調整に当たってきたセクレタリーから、この間にあったダイレクターやニューズレターの発行の経過、ウェブサイト立ち上げについて検討した事項、財務の状況などについて説明がありました。彼女はほとんど毎日数時間をAOSMの仕事に捧げたようです。そのご苦労は大変なもので、心から感謝したいと思います。

このAOSMで決定された主な事項は次の通りです。

今後、議事・財務、文書・出版、外部協力、会場選定の4常設委員会を設け、全評議員がどれかに参加すること。

AOSMの公式の予備金を積み立てること。

AOSMのウェブサイトを発展させること。

今回は2005年7月、オーストラリアまたは中国で開催。

そのテーマは「スポンサーシップ：広がり続ける輪の中の一一体性」とする。

この2泊3日の会議は最後に全員が手をつないで、始めは各国の言葉で、次には全員一斉に「平安の祈り」を唱えて終わりました。感激の一瞬でした。

日本の全ての仲間に支えられてこの素晴らしい会議に参加できたことを感謝します。また毎度の事ながら、ダグさんの流暢な通訳によって、すべての会議に完全に参加できたことを心から感謝いたします。

WSM評議員 野村 H.

AA日本ニュースレターNo. 102

編集・発行：AA日本ゼネラルサービスオフィス(JSO) 〒171-0014東京都豊島区池袋4-17-10土屋ビル4F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ：<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/aa-jso/>